

令和2年度 事業報告

令和2年度次の事業を行った。

事業所	介護保険事業等	定員
本部(事務局)		
ケアハウス ビラおおだ	ケアハウス	50名
	通所介護 介護予防通所介護相当サービス 訪問入浴介護 介護予防訪問入浴介護	47名
	訪問介護 介護予防訪問介護相当サービス 障がい福祉サービス	
	居宅介護支援 介護予防居宅介護支援 介護予防ケアマネジメント	
福寿園	養護老人ホーム 訪問介護サテライト事業(出張所)	50名
相愛保育園	保育所 一時預かり事業	120名
ビラあさやま	通所介護 介護予防通所介護相当サービス	40名
	認知症対応型通所介護 介護予防認知症対応型通所介護	12名
ビラたかやま	通所介護 介護予防通所介護相当サービス	45名
5事業所 本部(事務局)除く	21	

基本理念

- ①地域社会に開かれた事業所(法人)づくり
- ②利用者本位の高品質なサービスの提供
- ③永続する経営基盤の確立

重点項目

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 人材育成・確保 | 4. 経営基盤の構築 |
| 2. 将来に向けての事業展開とサービス提供 | 5. 地域貢献計画 |
| 3. 施設・事業所の整備、管理計画 | 6. 計画に対する評価等 |

基本方針

中・長期計画Ⅱ期最終年度となる今年度は、ワークライフバランスに配慮した職員の健康管理の充実を図り、心身ともに働きやすい職場環境づくりを進め、職員が確保、定着する法人づくりを目指す。

昨年度進めてきたリーダー的人材の育成については、研修等育成プログラムの修正を行い、キャリアパスに応じた目標達成を図る。

将来に向けての事業展開とサービス提供については、養護老人ホームの建替えに向けた具体的な検討を進めていく。また、これまで実施してきた事業の特色づくり、魅力あるプログラムを評価し、永続する経営基盤の確立のため、収入確保に向けて更に高品質なサービス提供を目指す。

中・長期計画Ⅱ期最終年度として、計画全体の評価を行い、課題等の整理を行うとともに、見直しを図り、次期計画のⅢ期へ繋げていく。

令和2年度重点計画(方針)項目

I 人材育成、確保

1) 人材育成の推進

① 育成プログラムの充実

- ア 育成プログラムの修正
- イ 育成プログラムの実施
- ウ 人材育成支援策等の活用
- エ 職場復帰等プログラムの実施

② リーダー的人材のレベルアップの実施

- ア 経営的視点を持った職員の育成

③ 目標管理・キャリアパスの充実

- ア 目標達成に向けての実施
- イ キャリアパスの実施
- ウ 目標管理とキャリアパスとの整合性についての確認

④ 評価表等の活用による自己評価

- ア 評価表に基づき実施、評価
- イ 利用者アンケートの実施、評価

2) 職員研修体系の充実

① 職員基本研修体系の充実

- ア 職員研修基本計画による実施
- イ 事業所内研修の充実
- ウ 実践研究発表会の実施

② 専門性の充実

- ア 認知症ケア実践に対する職員の配置
- イ 連携による重度化への対応(医療的ニーズ等)
- ウ 専門性を有する職員の育成
- エ 実務経験を満たす資格取得の奨励
- オ 専門的資格取得等に対する支援の実施

3) 帰属意識の推進

① 帰属意識の推進

- ア 帰属意識の推進

② 働きがいのある職場環境の推進

- ア 職場環境の適正化(業務内容の把握・周知)
- イ 健康管理の充実(就労等の把握・周知)

③ 職員表彰の推進

- ア 職員表彰の推進(業務内容に伴う表彰)

4) 人材確保に向けた推進

①福祉系学校との関係の推進

ア 学校訪問、各種就職説明会等への積極的な参加

②実習生・ボランティアの積極的な受入れ

ア ボランティア・実習生の受入れ継続

イ 実習の質の向上（マニュアルの作成）

ウ ボランティアの育成（マニュアルに沿った指導）

③広報活動の推進

ア 情報の発信の継続

④職員採用に向けた推進

ア 非正規職員の雇用の検討、実施

イ 職員採用試験の実施

ウ 幅広い受験案内の配付（インターネットへの配信・登録）

⑤障がい者雇用の促進

ア 法定雇用人数の雇用

イ 就労の為の環境の充実

⑥就業促進及び定着化

ア 就業促進及び定着化

イ 職員の処遇改善に向けての周知・実施

II 将来に向けての事業展開とサービス提供

1) 大田市福祉等整備計画に伴う事業展開の検討

①介護予防・日常生活支援総合事業の推進、評価

ア 介護予防・日常生活支援総合事業の推進、評価

2) サービス内容に関する評価と修正

①在宅・保育事業の特色づくり、魅力あるプログラムの評価

ア 魅力的で特色のある事業所づくりの取組み

②施設事業の特色づくりの推進

ア 施設事業サービスの特色づくりの取組み

③PRの強化推進

ア 効果的なPR方法の取組み

④地域包括ケアシステムに向けた事業の評価

ア 地域包括ケアシステムに向けた事業の検討

イ 制度改正に伴う事業の検討

3) リスクマネジメントの強化

①事故防止対策委員会の在り方検討

- ア 事故のない事業所づくり
- イ 事故防止対策の啓発推進

4) 事業体系の見直し、明確化

- ① 養護老人ホーム福寿園の建替えに伴う新たな事業展開の検討、及び計画作成
 - ア 養護老人ホームの検討及び具体的な施設整備計画の作成
 - イ 在宅サービス事業展開計画の作成と方向性の明確化
 - ウ 新たな事業展開による職員配置の検討及び職員配置計画の作成

Ⅲ 施設・事業所の整備、管理計画

1) 建物の長期維持を目的とした管理

- ① 大規模修繕の計画的な実施
 - ア I 期の見直しとⅡ期の大規模修繕計画の作成と実施
 - イ 建物維持管理計画の推進
- ② 小規模修繕の実施
 - ア Ⅱ期の小規模修繕の実施

2) 大型備品の整備

- ① 大型備品導入の検討、実施計画書の作成
 - ア I 期の見直しとⅡ期の大型備品購入計画の作成と実施
- ② 適正な備品管理
 - ア 備品管理計画に基づく効率的な運用推進

Ⅳ 経営基盤の構築

1) 目標達成に向けた推進

- ① 課題の把握、分析、改善の検討
 - ア 施設整備積立計画修正
 - イ 施設整備に係る試算
 - ウ 大規模修繕・大型備品整備に係る試算
 - エ 介護報酬等の加算取得に向けた取組み
 - オ 補助金の情報収集及び確保の研究
 - カ 物品等の管理計画修正及び実施

Ⅴ 地域貢献計画

1) 法人・事業所での計画実施

- ① 計画による実施
 - ア 地域貢献活動計画の実施
 - イ 地域貢献費の予算化

VI計画に対する評価等

1) 次期に向けての取組み

- ①新たな課題の明確化、次期計画への反映
 - ア 課題等の整理
 - イ 見直しに係る検討

2) 計画遂行状況確認

- ①中間評価の実施
 - ア 進捗状況の評価
 - イ 見直しに係る検討

1. 本部(事務局)

中・長期計画Ⅱ期最終年度となる今年度は、基本方針に掲げる重点項目の課題について計画的に取り組んでいく。

職員の確保、定着する法人づくりに向けては、働き方改革関連法に対応した職員の処遇改善を図り、ワークライフバランスに配慮した心とからだの健康づくりを進める。

人材育成については、エルダー制度を導入し、新人職員が安心して働ける労働環境を整え、職員の定着に向けて取り組んでいく。また、リーダー的人材のスキルアップについては、キャリアパスに沿った目標の達成に向けて支援する。

経営基盤の確立については、健全かつ適正な経営を継続していくため、各事業においてこれまで実施してきた事業の特色づくり、魅力あるプログラムの評価を行い、収入の維持に向け、更に高品質なサービスの提供を進めていく。

また、養護老人ホームの建て替えに向けた具体的な検討と併せ、今後の事業展開の検討を行う。

施設の維持管理と必要な備品の整備については、中・長期計画及び社会福祉充実計画に沿って計画的に進めていく。

中・長期計画Ⅱ期計画の全体評価を行い、課題等の整理、必要に応じた見直しを図り、次期計画に繋げる。

コロナ禍の1年、新型コロナウイルス感染症への対応として定期的に法人対策会議を開催し、関係機関の情報を基に連携をとりながら感染予防対策を図り、研修会の開催方法を検討・変更して実施した。

重点項目の課題に掲げる人材確保・定着に向け、同一労働同一賃金改正法施行にあわせ非常勤職員の通勤手当支給、非正規職員の定期昇給制度及び慶弔規定を導入し、また正規職員(介護職員)初任給の格上げ等処遇改善を図り、職員の定着に取り組んだ。職員採用に向けては、インターネット等を通じて求人を行い、結果4名(看護師、介護職員、

栄養士、保育士)の中途正規職員、令和3年4月1日付けで7名(事務員、生活相談員、看護師2名、保育士2名、調理員)を採用した。

人材育成については新人職員11名(正規職員6名、準職員5名)に対しエルダー制度を導入し、新しい職場環境でも不安なくスムーズに業務が行えるようにし、新人職員の離職を防止した。また10月には新人職員研修、リーダー職員研修を開催しスキルアップを図るとともにリーダー的職員については目標管理にキャリアパスに沿った目標を掲げ、施設長の指導助言を受けながら目標達成に向けて取り組んだ。

経営基盤の確立については、事業所ごとに立てた収入の当初予算達成に向け、施設長会議を中心に経営分析及び課題等について協議し、目標達成に向けて取り組んだ。

養護老人ホームの建て替えに向けては建設地を購入し、建て替え会議を開催し養護老人ホームの規模等について検討を進めた。

施設の維持管理、備品整備についてはビラあさやまでは人材確保等支援助成金(介護福祉機器助成コース)で特殊浴槽、ビラたかやまでは中央競馬馬主社会福祉財団より助成を受け公用車を整備した。また新型コロナウイルス対策の補助金で手洗い場の整備等を行い有効に活用した。中・長期計画Ⅱ期の各実施項目は中間評価を実施し未達成項目については下半期で計画的に実施するとともに、年度末で全体評価を行い、次年度の事業計画へと反映した。

令和3年3月31日現在

職員配置状況

事業所名	ケアハウス ビラおおだ	ビラおおだ デイサービス センター	ビラおおだ ホームヘルパー ステーション	ビラおおだ居 宅介護支援事 業所	福寿園	相愛保 育園	ビラ あさやま	ビラ たかやま	合計
正規・再任	8	12	3	5	12	20	9	9	78
準職員	6	2	1	0	5	8	5	2	29
非常勤職員	4	8	7	0	7	8	12	9	55
合計	18	22	11	5	24	36	26	20	162

事故、ヒヤリハット、気づき件数

事業所名	ケアハウス ビラおおだ	ビラおおだ デイサービス センター	ビラおおだ ホームヘルパー ステーション	ビラおおだ居 宅介護支援事 業所	福寿園	相愛保 育園	ビラ あさやま	ビラ たかやま	合計
事故	0	4	0	0	0	4	4	1	13
ヒヤリハット	8	23	5	3	23	46	27	15	150
気づき	201	550	51	60	304	1,253	708	408	3,535
車両事故	0	4	0	0	0	0	3	0	7

事故内容

事業所名	件数	内容
ビラおおだ デイサービスセンター	4	①浴槽階段上り口で左足第2指裂傷 ②朝食後薬の飲ませ忘れ ③脱衣場での左手甲表皮剥離 ④便器から転倒、左胸打撲
相愛保育園	4	①午後のおやつ後薬の飲ませ忘れ ②目に砂が入り痛み ③右肘脱臼 ④左肘脱臼
ビラあさやま	4	①和室上り口での転倒、腰椎圧迫骨折 ②昼食前薬の飲ませ忘れ ③福寿園送迎後、玄関で転倒し右脇腹打撲 ④朝食後薬の飲ませ忘れ
ビラたかやま	1	①昼食後薬の飲ませ忘れ

車両事故内容

事業所名	件数	内容
ビラおおだ デイサービスセンター	4	①利用者宅駐車場で訪問入浴車左後部を雨どいにぶつけボディ凹み、雨どい破損 ②リフト車で畑に落下し、同乗の利用者左顔面打撲、車の下回り破損 ③除雪した雪の塊にぶつけバンパー破損 ④利用者宅駐車場でバックをした際に柱に接触しブレーキランプカバーが破損
ビラあさやま	3	①利用者宅駐車場でバックした際、柱壁にぶつかり左後部凹み ②利用者宅付近の田んぼ農道でリフト車を方向転換し脱輪 ③送迎時方向転換した際ブロックでボディを擦る

苦情内容・件数

事業所名	件数	内容
本部	1	ビラあさやまの職員の対応について
ビラおおだデイサービスセンター	1	職員の対応について
ビラあさやま	1	職員の対応について

ボランティア受入れ件数(延べ)

事業所名	ケアハウス ビラおおだ	ビラおおだ デイサービス センター	ビラおおだ ホームヘルパー ステーション	ビラおおだ 居宅介護支 援事業所	福寿園	相愛保 育園	ビラ あさやま	ビラ たかやま	合計
余興、作業 手芸、食育等	6	0	0	0	1	22	0	0	29

施設サービス(入所者状況)

事業所名	ケアハウスピラおおだ	福寿園
入所者数	月平均 50名	月平均 50名
男性	11名	19名
女性	39名	31名
平均年齢	88.5歳	79.1歳

通所介護サービス(利用者状況)

事業所名	ピラおおだデイ	ピラあさやま (一般型)	ピラあさやま (認知症型)	ピラたかやま
1日平均利用人数	43.3名	30.1名	11.2名	35.2名

訪問サービス(利用者状況)

事業所名	ピラおおだデイ (訪問入浴)	ピラおおだ ホームヘルパー	ピラおおだ居宅
月平均利用人数	47.8件	介護586件、予防12件 障がい39件	介護164.3件 予防支援2.9件、予防ケア1.9件

保育サービス(園児状況)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
月平均園児数	14.4名	19.1名	24名	20名	30名	25名	132.5名

1. 理事会の開催状況

第153回理事会

- 月 日 令和2年6月2日
- 場 所 ケアハウスピラおおだ会議室
- 出席者 理事6名 監事2名 本部2名 施設長4名
- 議 題 (1) 令和元年度事業報告について
(2) 令和元年度資金収支決算について
(3) 社会福祉充実計画の変更について
(4) 第57回評議員会(定時評議員会)招集の決定について
(5) 評議員選任・解任委員の選任について

第154回理事会

- 月 日 令和2年11月18日
- 場 所 ケアハウスピラおおだ会議室
- 出席者 理事5名 監事2名 本部2名 施設長4名
- 議 題 (1) 施設の名称変更について
(2) 定款の一部変更について
(3) 福寿園管理規則の制定について
(4) 組織規則の一部改正について

- (5) 経理規程の一部改正について
- (6) 公印規則の一部改正について
- (7) 職員給与規則の一部改正について
- (8) 令和2年度資金収支補正予算について
- (9) 理事候補者の選任について
- (10) 第58回評議員会招集の決定について

第155回理事会

- 月 日 令和3年3月16日
- 場 所 ケアハウスビラおおだ会議室
- 出席者 理事6名 監事2名 本部2名 施設長4名
- 議 題 (1) 令和2年度資金収支補正予算について
(2) 令和3年度事業計画について
(3) 令和3年度資金収支予算について
(4) 第59回評議員会招集の決定について

2. 評議員会の開催状況

第57回評議員会(定時評議員会)

- 月 日 令和2年6月18日
- 場 所 ケアハウスビラおおだ会議室
- 出席者 評議員6名 理事長 監事2名 本部3名 施設長4名
- 議 題 (1) 令和元年度事業報告について
(2) 令和元年度資金収支決算について
(3) 社会福祉充実計画の変更について

第58回評議員会

- 月 日 令和2年11月26日
- 場 所 ケアハウスビラおおだ会議室
- 出席者 評議員6名 理事長 本部3名 施設長4名
- 議 題 (1) 定款の一部変更について
(2) 令和2年度資金収支補正予算について
(3) 理事の選任について

第59回評議員会

- 月 日 令和3年3月25日
- 場 所 ケアハウスビラおおだ会議室
- 出席者 評議員5名 理事長 本部4名 施設長4名
- 議 題 (1) 令和2年度資金収支補正予算について

- (2) 令和3年度事業計画について
- (3) 令和3年度資金収支予算について

3. 令和2年度監査

月 日 令和3年5月20日
 場 所 ケアハウスピラおおだ会議室
 出席者 監事2名 理事長 本部4名 施設長5名
 議 題 (1) 令和2年度事業報告について
 (2) 令和2年度資金収支決算について
 (3) 福寿園預り金管理状況

会議等

月	会議等	月	会議等
4	施設長会議◎4/9 第三者委員報告会◎4/23	10	施設長会議・中間報告会◎10/21
5	施設長会議◎5/28 監査会◎5/19	11	施設長会議◎11/26 理事会◎11/18 評議員会◎11/26
6	施設長会議◎6/25 理事会◎6/2 定時評議員会◎6/18	12	施設長会議◎12/24
7	施設長会議◎7/28	1	施設長会議◎1/28 内部経理監査◎1/28
8	施設長会議◎8/25	2	施設長会議◎2/25
9	施設長会議◎9/29	3	施設長会議◎3/16 理事会◎3/16 評議員会◎3/25

研修実施

法人全体研修

月	研修名	参加者
4	新人職員研修◎4/1	3名
6	人権同和問題研修会 ◎事業所ごとにDVDを使用	103名
7	メンタルヘルス研修会(管理者向け)◎7/1	12名
9	交通安全研修◎9/8	21名
10	リーダー職員研修◎10/29	21名
	新人職員研修◎10/29	5名
11	メンタルヘルス研修会◎11/4 (施設長及び安全衛生委員会)	12名
12	リフレッシュ研修◎12/10	9名
3	実践研究発表会◎3/4	69名

法人役員等研修

監事研修◎12/12

事業所外研修

眺峰園・清風園合同地域防災会議◎7/29	大田市介護サービス事業者協議会研修会（VR 認知症体験会）◎10/22
島根県老協研修会（新型コロナウイルス感染症対策研修）◎8/7、(WEB 研修)◎11/6	県央保健所主催研修会（新型コロナウイルス感染症等対策研修）◎12/8
高齢者虐待防止研修（WEB 研修）◎3/19	

事業所内研修 ◎各事業所内研修計画に基づき実施

事業所内研修	救急法研修
OJT(日常業務を通じた職員教育)	復命研修

施設サービス

2. ケアハウスピラおおだ(ケアハウス)

中・長期計画Ⅱ期の評価や課題を解決しながらⅢ期に向け業務に取り組んでいく。

法人の基本方針のひとつ「ワークライフバランス」の推進に向けて、無駄を除き簡素化を追求し就業時間の徹底と職員間のコミュニケーションを大切に働きやすい職場環境作りで離職のない職場へと繋げる。

リーダーは人材育成プログラムを通し、スキルアップを高め、職員への指導力の向上やチーム力を高め、施設全体のレベルアップへと繋げる。

入居者の笑顔と喜びの声が行き交う施設を目標とし、「元気な暮らし」をテーマに引き続き「食」と「健康管理」に力を入れ、入居者の日々の健康管理や「ふれあい食堂」の充実を図る。また、永く安心して生活出来るよう専門職として、医療・介護施設等と連携しながら支援力を高め重度化予防に努める。

地域と食や行事等の交流及び連絡会議を継続し、情報共有しながら地域から信頼されるように地域貢献計画を展開する。

「ワークライフバランス」の推進について、「無駄を除き簡素化を」をテーマに職員会議で3カ月毎に意見を出し合い業務へ取り入れ改善した。例として、①全職員で朝礼を実施し業務内容の確認周知を図った。②ホームページの決裁の取り方の簡素化をした。③iPadを使用し日誌の変更や職員会議資料等のペーパーレスを行った。

リーダーは施設長会資料で、法人内の経営状況や試算表の確認を行った。職員会議では資料を用いて施設長から経営について随時指導を受けた。

「健康」「食」「地域貢献」のサービスの特色づくり、健康管理については毎朝全入居者へ

の検温を実施し体調確認を行った。入居者の重度化予防対策として、認知症ケア担当者を決め、職員会議で iPad を使用しパワーポイントを使った研修を実施し認知症予防や閉じこもり予防だけでなく食事や水分から見た認知症予防など、個々の入居者への必要なケアへと繋がった。新型コロナウイルスの関係で面会制限等を行ったため、オンライン通話の実施とホームページを利用して日頃の様子を伝えた。行事については昨年度に比べて野外散策等外出は減少したが、リスク管理をしっかりと行いながら施設内での行事を多くし、納涼祭や敬老会、忘年会についても内容を変更し実施した。

年間平均 50 名の入居者を維持することが出来た。1 月からは、配薬管理の導入や、介護保険サービスの利用推進及びインフォーマルの利用と合わせて永くケアハウスで生活を送れるよう支援することが出来た。

地域貢献について、ふれあい食堂は 4 月を最後に休止としたが、関係が途絶えないように対象者に暑中見舞いや料理の紹介を載せたハガキを出した。新型コロナウイルスの状況を確認しながら民生委員と相談し 10 月からふれあい食堂出前として再開した。3 月 31 日現在、1 カ月あたり、ふれあい食堂出前利用者は 23 名、配食弁当は 10 名の利用。その他、川合町自主防災会協議会と連携し訓練用消火器を借りて消火訓練の実施、ケアハウス、川合まちセン、川合小学校を会場に非常食つくりを計画実施し、年間を通し地域との連携を図った。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4	野外散策(花見)◎4/3 ガーデンランチ◎4/7	10	ガーデンランチ◎10/6 パン交流会◎10/28
5	初夏の炭火焼き◎5/11	11	川合町文化祭への参加◎11/8 野外散策(銀杏のライトアップ) ◎11/25 感謝を込めてフルコース(地域交流)◎11/30 イルミネーション点灯式◎11/25 福寿園交流会◎11/16 夜間火災避難訓練◎11/10
6	ケアハウスビラおおだ合同通信発刊 ◎6/1 野外散策◎6/4~6/6 入居者懇談会(居室にて個別に実施) ◎6/25~6/30 食中毒・疾病予防勉強会(居室にて個別に実施)◎6/25~6/30	12	忘年会◎12/23 クリスマス喫茶◎12/24 餅つき◎12/25 そば打ち◎12/14
7	行楽遠足(おにぎり持参)◎7/1 七夕祭り◎7/5 訓練用消火器を使った消火訓練◎7/7	1	新年会◎1/1 初詣(物部神社)◎1/1 新春ゲーム大会◎1/4
8	夏祭り◎8/2	2	節分◎2/2

9	敬老会◎9/13 行楽遠足（弁当持参）◎9/24、9/28、 9/29、9/30 秋の味覚三昧◎9/25	3	ひなまつり喫茶◎3/3 大田市福祉展への作品出展、見学◎ 3/7 相愛保育園リモート交流会◎3/16
その他	名画シアター◎8/20、買物外出支援（月1回）、ビラ'sキッチン（年4回）◎5/26、 6/8、7/16、2/26、GOTO 全国味巡り（月1回）◎11月より開始 誕生食◎月1回、ミニ運動会（年1回）◎3/8、クラブ活動（園芸、脳トレ）◎随時 法話会（月1回）◎11月より再開 （地域交流・貢献） ふれあい食堂（週3回）◎4/9～休止、ふれあい食堂出前（月1回）◎11月より開 始、ふれあい食堂民生委員との連絡会議◎3/9（ふれあい食堂民生委員との電話連 絡会議◎年2回） 非常食づくり（年3回）◎9/1、10/16、1/29、出岡サロン（月1回）◎1月より再開、 書道クラブ（月1回）◎1月より開始、手芸交流（月1回）◎1月より再開		

3. 福寿園（養護老人ホーム）

入園者が安心して園生活が送れる為に、認知症を有する方や精神疾患等を持つ入園者一人ひとりの生活状況、身体状況を把握し、職員間で情報を共有し、各事業所と連携を図り入園者の状況に添った支援を継続していく。近年入園者の平均年齢も下がっている為、作業棟で行っている手芸、趣味活動だけでなく、園外活動や外出支援等を取入れ、活動の内容をさらに充実させ、楽しみや喜び、生きがいのある生活が送れるよう支援する。また、入園者のもう一つの楽しみである「食」についても、年間を通して希望に添った食事の提供の継続と、病状により食事制限のある入園者の方も他の入園者と一緒に楽しく食べられるお茶会を継続する。

地域交流として、昨年度から開催した感謝会や川合町ふれあいの会等を実施し、地域との関わりを深めると共に情報交換の場を作る。

福寿園建替えについては本部との協議を重ねていくと共に、施設見学や設備、備品等について福寿園内で検討を進めていく。

定期的に係長、主任会議を開催し、課題を解決し働きやすい職場環境作りに取り組んでいく。

大田市と待機者状況、入園者状況等の情報交換を継続し、入園者定員50名を維持していく。

新型コロナウイルス感染症予防の徹底を図りながら、可能な限り園内活動、畑活動、お楽しみクラブ、外出支援、ケアハウス入所者との交流会等を行ったが、集団で行う交流事業や感謝会等は中止した。入園者が安心して園生活が送れるよう、日々の生活状況、身体状況の変化を支援員、看護師、調理員共通の記録用紙を作成し共有することで、変化を細かく確認し、また処遇給食会議で食事形態やアプローチ方法の検討等を行い、入園者の状況に合った支援を行った。夜間支援員についても対応方法を繰り返し確認する事で統一したケアを提供することができた。精神疾患等のある新規入園者には、介護支援専門員、関係機関等との情報交

換を密に行い、サービス内容の検討や、必要時には介護保険変更申請を行い、状況に合ったサービスが提供できるようにした。

食については嗜好調査を実施し希望に沿った食事の提供や食事制限のある方も美味しく、満足感のあるお茶会に取組んだ。

定期的に係長、主任会議を開催し、各職種の業務内容の確認や抱える問題点の解決方法を話し合い、園内活動、クッキング等において多職種間で協力して楽しみのある活動に取組んだ。福寿園建て替えについては、園内で感染症対策、設備基準に沿った居室配置や入園者の状況に合わせた浴室、食堂配置等の検討を行い、本部と協議を重ね、計画を進めた。また、霊安殿に安置されていた遺骨を大田市の墓地に納骨した。

入園者については大田市と待機者状況、入園者状況等の情報交換を密に行って定員 50 名を維持した。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4	花見お茶会◎4/7	10	
5	園芸活動◎5/24	11	川合町文化祭作品展示◎11/7、8 ケアハウス交流会◎11/16 野菜作り◎11/22、26
6	土砂災害訓練◎6/4	12	餅つき◎12/28 園芸活動◎12/24 クリスマスお茶会◎12/24 夜間火災避難訓練◎12/3 正月飾り付け◎12/21
7	施餓鬼法要◎7/8	1	新年お茶会◎1/13
8	福ふく広報発行◎8/31 野菜作り◎8/7 夏祭り◎8/14	2	節分お茶会◎3/2 福ふく広報発行◎2/1
9	長寿を祝う会◎9/13 訓練用消火器を使った消火訓練◎9/18	3	ひな祭りお茶会◎3/3 火災避難消火訓練◎3/8 大田市福祉展見学◎3/6、7
その他	法話会(月1回)◎11/26、誕生会(月1回)◎月1回、お茶会(月1回)◎月1回 お楽しみクラブ(毎日)◎毎日、屋外活動(随時)◎5/24、◎6/19、◎8/20 外出支援(月1回)◎6/17、6/24、9/16、◎10/15、◎3/18 交通安全ストラップ作り◎7/1~8/31		

保育サービス

4. 相愛保育園

開所日数 363日(1月1日~1月3日まで休園)

サービス提供時間 7:00~19:30

安定した経営基盤の確立に向けて人材を確保し、エルダー制度の導入や勤務時間、業務内容の見直しなどを行い、誰もが安心して働ける職場環境作りを進める。職員一人ひとりが経験年数や職責に応じて求められる責務を自覚し、それを踏まえた目標の設定と達成に向けて、個々のスキルだけでなく、保育園全体で保育の質を向上させ、安心、安全な保育を提供する。

保育では、昨年度に引き続き「感性豊かな子ども」を重点目標とする。前回好評だった樹木匠さんとの交流を今年度も行ない、散歩コースにある植物のマップを作る。この他にも川遊びなどを通して、大田市の魅力である豊かな自然への興味関心や故郷への愛着を育てる。学びの基礎となる集中力や姿勢保持の力を養うため、習字や折り紙など日本の伝統的な活動や体操教室、姿勢改善の運動を保育に取り入れる。またコミュニケーション力や理解力の基礎となる子どもの言語について、職員が子どもの言語への知識を深め、年齢や発達に応じた絵本の選び方や言葉のかけ方について共通理解を持ち、実践する。誕生会や保護者研修・保育参観を利用し、音楽や芸術に触れる機会を設ける。

食育では、身近な食材への興味を育てるため豆腐作りを行う他、親子クッキングの対象をこれまでの5歳児から3歳児までを2歳児まで広げ、朝食の大切さを保護者へ更に伝えていく。

毎月最終水曜日をエルダーの日とし、新人職員4名とエルダー職員が定期的に面談を実施し、安心して働ける環境を作り職員の離職を防止した。

今年度の保育目標のイメージをイラスト化し、4月の園だよりで保護者に配布し、クラスだよりやホームページにも保育のねらい等を記載し、魅力を伝えた。

新型コロナウイルスの影響で予定していた行事の多くが中止・延期となる中、感染症拡大防止対策を実施しながら、子どもたちが楽しみ、個々に成長できるよう保育や行事を工夫した。

大田市の魅力である豊かな自然への興味関心を育てるため、積極的に散歩に出かけた。坂道や階段を登る機会を増やし、体幹の基礎を養うと共に、散歩先で見つけた木の実や草花で製作遊びを楽しんだ。また蝶のさなぎやメダカ、亀の飼育を通して、身近な自然や動植物に興味を持ち、命の大切さを学ぶことができた。お楽しみ会で5歳児は保護者に見て欲しいことを自分たちで考え、折り紙や楽器演奏等を披露し、4歳児は3月に絵画教室を実施、3歳児は2月の誕生会で劇あそびを披露した。これらの体験を通して様々な方法で自由に表現する面白さを味わい、意欲を育て自信を深めることができた。

食育では夏野菜ビュッフェやクッキングを実施し、園児の食への興味を育て、また予定していた親子クッキングの代わりとして保育園で人気のおやつやおかずのレシピ集を家庭に配布することで、継続して保護者へ食への興味・関心を持って頂くことができた。

子どもの言語について、全クラスを対象に調査を実施し、園児の現在の状態を基に、講師先生から絵本の選び方、言葉の掛け方についてアドバイスを受け実践した。実践後は、園児がいきいきと会話するようになった。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4	入園式 ◎4/4	10	小学生との交流会（小学生へのアンケート実施）◎10/1 親子運動会◎10/3（年長児のみ） 園外保育◎10/21 園児健康診断◎10/21 箱寿司づくり（カップ寿司に変更）◎10/16 ハロウィンごっこ◎10/30
5		11	秋祭り（年長児のみ）◎11/7 園児歯科検診◎11/18
6	個人懇談（年長児のみ）◎7/27 ～8/7 虫歯予防集会◎6/4 保護者会総会（役員のみ）◎6/23	12	クリスマス会◎12/23 個人懇談（全クラス）◎12/14～25 親子お楽しみ会（年中児、年長児のみ）◎12/12
7	七夕会◎7/7 夏祭りごっこ◎7/17	1	餅つき会◎1/29
8		2	節分会◎2/2 雪あそび◎2/12 作品展（HPで公開）◎2/15 かまぼこ工場見学◎2/16 なかよし茶会◎2/17
9		3	お別れ会◎3/17 なかよし遠足◎3/12 新入園児・継続児健康診断◎3/2 交通安全教室◎3/4 ケアハウスリモート交流会◎3/16 ひなまつり会◎3/3 卒園式◎3/27
月例 行事	体操教室（年長児）◎10/6、10/20、11/16、11/17、12/1、12/17、1/21、1/26、2/2、3/18 誕生会◎月1回 身体測定◎月1回 避難訓練◎月1回 お茶のおけいこ◎10/13、11/10、12/10、1/19、3/9 習字（年長児・年中児）◎4/22、5/22、6/17、7/21、8/17、9/8、10/27、12/15、1/5、2/10、3/11		
その他	環境整備（春、秋）◎5/21、10/18 防犯訓練◎5/22、7/26、9/16、11/15 お弁当ごっこ◎10/9、11/12、12/10、1/15、2/12、3/5		

通所介護サービス

5. ビラおおだデイサービスセンター

通所介護・介護予防通所介護相当サービス

開所日 311日（日曜日及び1月1日～1月3日まで休業）

サービス提供時間 9：30～16：35

利用者ができる限り住み慣れた地域や在宅で自立した生活が送れるように、個々の心身状態や生活環境等に応じた目標設定を行い、実施していく。機能訓練にあたって、在宅生活の状況を把握するために居宅訪問チェックシートを活用し、実生活に結びついた訓練を盛り込む。また、楽しみを持ちながら体力アップや身体機能向上を図るため、屋外訓練やノルディックウォークの取組みを継続するほか、興味関心チェックシートを活用し「してみたい」を取り入れた活動をし、事業所の特色に繋げる。

利用者の重度化、認知症の進行等、多様化するニーズに対して、事業所内外の研修で知識・技術を学び、専門職として社会の期待に応えられる人材育成に取り組む。

リスクマネジメントについて、職員間で気づきの共有をする中で、適時マニュアルの見直しを図り、事故のない事業所づくりに取り組む。ハード面においても日常点検や備品管理を行うことで安心・安全なサービス提供に繋げる。

事業所の取組みを通信等活用して各関係機関に周知を図り、介護支援専門員や利用者・家族から選ばれる事業所づくりをする。デイサービスに求められる社会的なニーズ把握や情報収集を行い、ケアハウスと連携を図りながら地域貢献の取組みを行う。

新型コロナウイルス対策で、様々な活動を自粛する中、活動メニューとして、主に「手芸・脳トレ・体操」のほか、興味関心チェックシートを活用し、「書道」「抹茶」など定期的に取り入れ、楽しみの幅が広がった。小グループでの活動だけでなく、講師を招いたパン作り教室では、全員参加型で行い普段とは違う発見が出来た機会となった。

個別の機能訓練では居宅訪問チェックシートを活用し、畳の部屋での床からの立ち上がり訓練や、階段昇降を行うとともに、歩行能力の維持向上等を目的として昨年度から継続してノルディックウォークを実施し、在宅生活の支援を行った。新規の受け入れ時や、担当者会議ではiPadを活用し、在宅や病院でのリハビリの様子を職員間で共有し、機能訓練に活かした。

利用者の重度化や認知症の進行予防に対応するため、事業所内研修を実施し実践した。

活動の様子は分かりやすい記事にして毎日ホームページへ掲載し、地元川合の通いの場においては事業内容を紹介するとともに体操を体験していただいた。

リスクマネジメントについては、気づきの件数が減少したり対策が不十分で事故につながったケースがあったため、リスクに関する事に重点を置いた小ミーティングを毎日行い、事故防止を行った。また環境的要因となる備品や車両に関しては点検表を基に管理を徹底し、事故防止を行った。

介護支援専門員や家族、専門職と密に連携をし、重度者の受け入れを積極的に行い、在宅の利用者や施設入所者の安定した生活を支援するため、必要に応じて利用回数や曜日の調整を行った。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4	花見会◎4/20、21 屋外訓練（花見）◎4/6～11	10	屋外訓練◎10/14～20 感染症予防教室◎10/19～23
5	屋外訓練◎5/19、20、21	11	屋外訓練（紅葉）◎11/17～21 川合町文化祭出展◎11/7
6	食中毒予防教室◎6/30、7/1、6 屋外訓練◎6/2～8 ビラおおだ合同通信発刊◎6/1	12	忘年会◎12/12、17、21 クリスマス会◎12/24
7	七夕会◎7/7	1	新年会◎1/5、8 初詣◎1/14～25
8	納涼祭◎8/20、21	2	節分会◎2/2
9	敬老会◎9/14、15、18 川合保育園交流（DVD）◎9/15	3	ひな祭り会◎3/3 大田市福祉展出展◎3/6 火災避難消火訓練◎3/12 屋外訓練（花見）◎3/24～30
その他	ビラおおだデイ通信◎個別通信発行 誕生月 クッキング◎月1回、喫茶◎月1回、パン作り◎12/11 クラブ活動 手芸、脳トレ、習字、体操◎随時		

6. ビラあさやま

通所介護・介護予防通所介護相当サービス

開所日数 311日（日曜日及び1月1日～1月3日まで休業）

サービス提供時間 9：30～16：35

住み慣れた地域、自宅で安心して生活を続ける為に、利用者の暮らしに焦点をあて、「暮らしの中で何を補うことで残存機能が維持出来るのか」を考え、「自立心を取り戻す」「出来ることを自覚する」「仲間と出会う」場、介護する場から生活を支える場として、施設全体がリハビリテーションの場である意識を持ち、支援を行う。

近年の家族形態の変動、今後の介護保険の動向に合わせて、看取りや重度化防止等についての専門的研修への参加、事業所内研修を行い、知識、技術を身につける。また、医療との連携を密に行い、医療依存度の高い利用者、重介護者への受入れを行い、迅速にケアの実践を行う。

地域の方が集う場所へ出向き情報収集、発信し、積極的にボランティアを受入れ、事業所、地域との繋がりを深める。

中・長期計画Ⅱ期に基づき、より事業所内のコミュニケーションを図り、リーダーが率先して業務改善や目標の達成、施設整備等を検討し、職員一人ひとりが自らの役割を認識し、自主性を持って取り組める事業所とする。

興味関心チェックシート等を活用し利用者個々の生活習慣や生活体験を知り、「出来る事、出来ない事」「したい事、したくない事」を把握することで前向きに取り組める目標を設定し、日々の生活に根差した支援を実践した。また、細かな気づきをあげ、サービス内容の再検討を繰り返し行い全職員で統一したサービスを実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響により事業所外研修への参加が難しい中で、主任が中心となり介護保険情報の発信や医療依存度の高い利用者、重介護者の支援、コミュニケーション術等の事業所内研修を立案し、研修方法もグループワーク形式を取り入れ、自発的な発言や自主的な姿勢が身につくように工夫をした。

地域活動へは少人数での参加や作品の出展等、可能な方法で地域との交流を続け、毎月発刊するびらあさやま通信においては活動内容の紹介だけでなく、健康、介護情報の発信を行った。

サービス担当者会議や送迎時等に日頃の活動の様子を記録した iPad を持参し介護支援専門員や家族に動画や写真で分かり易く状況を伝えた。

主任、事故対策委員が中心となり、日々の気づき、ヒヤリ、事故、苦情等について、職員会議、ミーティングにおいて支援方法の振り返りを行い、また他事業所のケースについても自事業所に置き換えて検討をした。

全職員が互いに意見が言い合える関係作り、報連相の徹底を図り、利用者が安全に満足して過ごして頂けるようチームケアを実施した。

行事实施

月別	行 事	月別	行 事
4	屋外体操◎4/11、15	10	屋外訓練◎10/5～6 屋外体操◎10/1、2 運動会◎10/14、16 野外食 10/19～20 地域貢献活動（寄せ植え贈呈）◎10/31
5	屋外体操◎5/2、4、28、29、30 野外食◎5/20、25 体力測定 ◎5/18～23	11	文化祭出展（朝山）◎11/2 文化祭出展（富山）◎11/18 屋外訓練◎11/20 野外食◎11/6 体力測定◎11/18～24 感染症予防教室◎11/11、16、17 絵手紙教室◎11/10～12
6	火災避難消火訓練◎6/20 屋外訓練◎6/2、3、5 日常生活動作訓練◎6/22、24、25 手芸教室◎6/17、26	12	屋外訓練◎12/2 クリスマス会◎12/24 クリスマス喫茶◎12/24 忘年会◎12/15～16 フラワーアレンジメント（門松作り） ◎12/25 餅つき◎12/30
7	七夕◎7/7、8 食中毒予防・熱中症予防教室 ◎7/14～16	1	初詣◎1/13、15 お茶会◎1/20

8	波根保育園動画による交流会 ◎8/27 夏祭り◎8/25	2	節分◎2/1 食育教室◎2/4 土砂災害避難訓練◎2/3 屋外訓練◎2/11、12、22
9	敬老会◎9/21、23、25	3	ひなまつり会◎3/3 屋外訓練◎3/23～26 野外食◎3/27 火災避難消火訓練◎3/5
その他	喫茶◎随時、園芸活動◎随時、クッキング◎月1回、手芸◎随時		

認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護

開所日数 311日（日曜日及び1月1日～1月3日まで休業）

サービス提供時間 9：30～16：35

その人らしく生活する為に、どんな暮らしをしてきたのか、利用者が生きてきた時代を本人、家族、関わっている人々からアセスメントをし、その人を良く知ることから始め、以前行っていたこと、今でも出来ることを把握する。

定期的に認知機能検査を実施し、役割作りにおいては評価内容に合わせたプログラムを作成し実施する。

重度の認知症の利用者の方には、相手のすべてを受け入れることから始め、言語、非言語コミュニケーションを使い、各関係機関（家族、主治医、各サービス）と連携しながら落ちていて過ごせるよう環境等を整え、一人ひとりの個性に合わせて、個別性、柔軟性を持って支援を行う。

地域の方が集う場所へ出向き情報の収集と発信をし、中・長期計画Ⅱ期に基づき、より事業所内のコミュニケーションを図り、リーダーが率先して業務改善や目標の達成、施設整備等を検討し、職員一人ひとりが自らの役割を認識し、自主性を持って取り組める事業所とする。

利用者の表情や目の動き、仕草、振る舞い等の日頃の様子観察、興味関心チェックシートを用いて本人の思いを聞き、認知機能評価（MMSE）を行い、利用者の現在の認知機能の状態を把握した。収集した情報を基に、その人の意欲や望み、得意な事、難しい事を処遇会議にて個別プログラムの検討、実践、成果や変化の記録を繰り返し、よりよい支援を行った。

中・重度の認知症の方には言語でのコミュニケーションだけでなく、1対1での関わりやジェスチャー等を用い、一人ひとりの個性に合わせて支援を行った。必要時には家族、介護支援専門員と専門医を訪問し現状報告、相談、助言を受け日々の支援内容に活かした。

新型コロナウイルス感染症の影響により事業所外研修への参加が難しい中で、主任が中心となり介護保険情報の発信や、医療依存度の高い利用者、重介護者の支援、コミュニケーション術等の事業所内研修を実施し、研修方法もグループワーク形式を取り入れ、自発的な発言や自主的な姿勢が密につくように工夫をした。

地域活動へは少人数での参加や作品の出展等、可能な方法で地域との交流を続け、毎月発行するピラアサヤマ通信においては活動内容の紹介だけでなく、健康、介護情報の発信を行った。

サービス担当者会議や送迎時等に日頃の活動の様子を記録した iPad を持参し介護支援専門員や家族に動画や写真で分かり易く状況を伝えた。

主任、事故対策委員が中心となり、日々の気づき、ヒヤリ、事故、苦情等について、職員会議、ミーティングにおいて支援方法の振り返りを行い、また他事業所のケースについても自事業所に置き換えて検討をした。

全職員が互いに意見が言い合える関係作り、報連相の徹底を図り、利用者が安全に満足して過ごして頂けるようチームケアを実施した。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4	屋外体操◎4/6、8、15、21 認知機能評価◎4/13～4/24	10	屋外訓練◎10/5～6 屋外体操◎10/1～2 運動会◎10/14、16 屋外食 10/19～20 誕生会◎10/3 地域貢献活動（寄せ植え贈呈）◎10/31
5	屋外体操◎5/4、6、11、20、26 野外食◎5/13	11	文化祭出展（朝山）◎11/2 野外食◎11/6 文化祭出展（富山）◎11/18 屋外訓練◎11/20 体力測定◎11/18～24 感染症予防教室◎11/11、16、17 絵手紙教室◎11/10～12 誕生会◎11/28
6	火災避難消火訓練◎6/20 屋外体操◎6/3、8 日常生活動作訓練 ◎6/22、24、25 誕生会◎6/16	12	屋外訓練◎12/2 クリスマス会◎12/24 クリスマス喫茶◎12/24 忘年会◎12/15～16 フラワーアレンジメント（門松作り） ◎12/25 餅つき◎12/30 誕生会◎12/8
7	七夕◎7/7、8 食中毒予防・熱中症予防教室 ◎7/14～16 誕生会◎7/10 屋外訓練◎7/17、25	1	初詣◎1/13、15 お茶会◎1/20
8	波根保育園動画による交流会 ◎8/27 夏祭り◎8/24 誕生会◎8/8	2	節分◎2/1 食育教室◎2/4 土砂災害避難訓練◎2/3 屋外訓練◎2/11、12、22
9	敬老会◎9/21、23、26 屋外訓練◎9/14 誕生会◎9/19	3	ひなまつり会◎3/3 屋外訓練◎3/23～26 野外食◎3/27 火災避難消火訓練◎3/5 誕生会◎3/20
その他	回想法◎月2回、学習療法◎随時、音楽療法◎随時、園芸療法◎随時、 アロマセラピー◎随時 喫茶◎随時、クッキング◎週1回		

7. ビラたかやま

通所介護・介護予防通所介護相当サービス

開所日数 311日（日曜日及び1月1日～1月3日まで休業）

サービス提供時間 9：30～16：35

利用者一人ひとり「個」を大切にし、自立支援の視点から在宅生活が維持できるよう、助言や介護、機能訓練、余暇の活動等の適切なサービスを提案し、地域との繋がりや交流を図りながら地域に貢献できる施設づくりを行う。

パソコンやiPad等を更に活用し、引き続き業務の効率化、業務内容の省力化を図ると共に職員一人ひとりが計画的に業務を進める事ができるよう進捗状況を確認、相談しながら、職場全体での意識を高め、互いに協力して働きやすい職場環境を整備する。

中・長期計画Ⅱ期の最終年度として、法人のキャリアパスに応じて事業所や個々の課題解決に向けて速やかに対応できるリーダー的人材のレベルアップ、専門性を有する職員の育成を行い、目標管理においての個々の目標達成と事業所の計画が達成出来るよう取組みを実施する。

新型コロナウイルス感染症対策の為、行事や交流事業を見直し、職員又は利用者主体で行うなど、内容を変更して活動や行事を実施した。祖式、大森の文化祭への作品出展及び見学を行い、3月には花苗とメッセージカードを作成し、保育園、小学校、中学校5ヶ所に卒業、卒園のお祝いを行った。

機能訓練については個人の目標設定を明確にして計画書を作成し、ミーティングにて全職員で周知してサービス提供にあたった結果、機能向上に繋がり自宅での役割が継続できたなどの声を聴くことができた。

iPadを活用し直接利用者の変化等を記録することで、職員間のタイムリーな情報共有と業務の省略化に繋げ、脳トレや音楽療法等利用者の余暇活動を行うと共に、保育園児の歌や踊りを動画で見えていただくなど交流にも活用した。また、担当者会議では利用者のリハビリや活動の様子を家族や介護支援専門員等に見てもらい、分かりやすく情報を伝えることができた。

多職種で相談、協力し業務を計画的に進められるよう締切日を明確にし、進捗状況を確認しながら進めた。また目標管理では目標達成に向けリーダーが中心となって指導助言を行った。日頃から施設整備や点検を行い、必要に応じて整備や修繕を行った。

事業所のPRとして、活動等を毎日のホームページに掲載、個人通信の発刊により、様子がより分かり易いものにし、情報発信を行った。

行事実施

月別	行 事	月別	行 事
4		10	運動会◎10/14、15

			感染予防教室◎10/20、21、23 屋外訓練◎10/12、13、16
5	ビラたかやま通信発刊◎5/25 体力測定◎5/11～15	11	文化祭出品◎11/12 大森、11/20 祖式 文化祭見学◎11/23 祖式 屋外訓練◎11/23～28 火災避難消火訓練◎11/18
6	火災避難消火訓練◎6/26 脱水予防教室◎6/8、10、12 屋外訓練◎6/23、24、25、29	12	忘年会◎12/15～21 餅つき◎12/23 クリスマス会◎12/25
7	七夕◎7/7 屋外訓練◎7/17	1	新年会◎1/4、5、13 初詣◎1/21 屋外訓練◎1/21 正月遊び◎1/9 ビラたかやま通信発刊◎1/20
8	水上保育園交流◎8/7 家族交流会(夏祭り) ◎8/12～14 屋外訓練◎8/24、28	2	節分◎2/2
9	敬老月間◎9/21～26 お茶会◎ 9/24 屋外訓練◎9/15、16 土砂災害避難訓練◎9/2	3	ひな祭り◎3/2 屋外訓練◎3/15、17、23、26
その他	プチカフェ◎月1回 パンの日◎月1回		あつあつメニューの日◎月1回

訪問サービス

8. ビラおおだデイサービスセンター

訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護

寝たきりなどの理由で在宅での入浴が困難な高齢者に対し、身体の清潔保持、心身機能の維持回復を図り、可能な限り自宅において日常生活を送ることができるよう安心安全なサービス提供をする。

ターミナルや医療依存度の高い利用者が増加する中、専門性を持って入浴介護を行う為、知識と技術等を勉強会により習得しスキルアップに繋げる。また、ヒヤリハットや気づきの検証、機材などの日常点検と衛生管理を定期的実施する。

入浴前の体調によっては、部分浴・清拭などに切り替え、また、病状の急変が生じた場合などかかりつけ医、各関係機関との密な連携を図り信頼される事業所づくりを行う

移動動作時にスライディングボードを新たに使用したことで、利用者や職員の負担軽減となり安全な移乗が出来た。ターミナルの方に対しては介護支援専門員や訪問看護と連携を図り、在宅生活を支援することが出来た。

当初予算の目標に向け、月、火、金の週3日を稼働日とし空き情報を介護支援専門員へ発信した。2月には居宅部会へ参加して事業の紹介や情報収集を行い、新規利用につながったケー

スもあったが、目標達成には至らなかった。

衛生管理として入浴時の使用備品等の日常点検を行い、また定期的な訪問入浴車の点検を実施すると共に、気づきを共有し安全なサービスを提供した。

身体状況の変化があれば介護支援専門員または訪問看護等へ直接報告し信頼される事業所づくりを行った。

医療依存度の高い利用者へ安心安全に対応できるよう訪問後振り返りを行い、スキルアップの向上を図ると共に、日々の業務で挙げた気づきを多職種へ発信し事故防止を行った。

9. ピラおおだホームヘルプステーション

訪問介護・介護予防訪問介護相当サービス・障がい福祉サービス

利用者が住み慣れた地域や施設で生活していくため、心身や環境状況に応じて自立した生活を営むことが出来るよう、利用者のできる能力を把握して、日常生活で活かせるよう各職種間と連携して支援していく。また、多様なニーズ（認知症、ターミナルケア、重度化対応）や利用者の状態に応じた介護が出来るよう、質の高いサービスに向け個別対応能力の向上を図るため、事業所内外の研修会参加や勉強会を行い、職員が一体となって取り組む。

働きやすい職場環境の整備に向け、職員間のコミュニケーションを大切に、日々の業務の中での気づきやリスクマネジメントの共有、また、訪問時間の調整等職員同士がお互いにサポートし合い、安心して長く勤められる事業所づくりを目指していく。

居宅介護支援事業所との連携の強化、利用者の思いや要望に応じていくため、利用者満足度調査を行い、より良いサービスに繋げていく。

ケアハウス、養護老人ホームの施設機能を活かし、訪問件数を維持していくとともに多職種との連携を密にして、柔軟かつタイムリーな対応を行い入居者の安心安全な生活を支援していく。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、各関係機関の情報を基に職員会議等に対応を協議し職員、利用者、家族の健康状況を確認しながらサービス提供を行った。また新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所外研修の中止はあったが、事業所内での勉強会を充実させた。

多様な（ターミナル、認知症等）ニーズに対応できるよう、個々の職員に対する研修目標の設定、サービス提供責任者による訪問前後の情報共有のための報告・指示を徹底し、重度者対応を含め適切なサービス提供を行い、質の高いサービス提供を実施した。また、働きやすい職場環境の整備として、職員間のコミュニケーションが充分図れるように、日々の業務の気づき、利用者の自立に向けた介助方法の工夫提案等を毎月の職員会議で共有し、サービス提供に活かし適切な対応をした。利用者の身体状況及び連絡ノートの活用による情報の共有することで、担当者会議で各事業所、家族へ最新の情報を提供し、必要時サービス内容の変更を提案でき、居宅介護支援事業所に報告し連携を図った。

ケアハウス、養護老人ホームの情報共有を密にし、必要に応じて訪問回数等の変更を行い、

不安なく施設での生活が送れるよう、柔軟かつタイムリーな対応を行った。
満足度調査を、事業所、利用者及び家族に実施し、高評価を得ることができ次年度に繋げて行く。

10. ビラおおだ居宅介護支援事業所

居宅介護支援・介護予防居宅介護支援・介護予防ケアマネジメント

特定事業所として、主任介護支援専門員を中心とし、質の高いケアマネジメントを実施し利用者の生活の質の向上を目指す。

利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関する伝達を目的としたケース会議を週1回行っていく。また、医療ニーズの高いケースや支援困難ケースの受入れに当たっては地域包括支援センターや関係各所との連携を密にして積極的に取り組むとともに、事例検討会については計画に基づき、居宅介護支援部会や地域包括支援センターが実施する研修会等に参加し、ケアマネジメントの質を高めていく。

介護支援専門員実務研修の見学実習の受入れを積極的に行い、指導力の向上を図る。また、地域の要望に対して介護予防教室や認知症サポーター養成講座などを開き、協力していく。

法人内事業所と随時検討を行い、サービスの質の向上に向けて取り組むとともに、社会情勢の変化や推移などの必要な情報は、法人内事業所へ積極的に発信する。

経営基盤の構築については、多職種の専門職による専門性を活かした支援が提供できることをPRしながら、集中減算に留意し介護給付目標件数を目指すとともに、状況に応じて予防プランを受入れ健全な事業を推進する。

新型コロナウイルス感染症の流行によりこれまでにはない対応を迫られたが、最新の情報を収集して対策を講じ、利用者や職員の健康管理を図った上で業務を行った。感染症拡大防止の観点から集合や対面が困難となり、サービス担当者会議やモニタリング訪問を最小限に留めた期間もあったが、利用者の生活の質が低下しないよう配慮し、継続したサービス提供が出来るように各事業所・多職種との情報連携を密に行った。

また、居宅介護支援部会や地域包括支援センター等の研修をはじめ、外部研修の多くは中止や延期となったが、オンライン研修の活用等、今後の研修のあり方も見直すきっかけとなった。介護支援専門員実務研修の見学実習では1名の実習生を受け入れ、主任介護支援専門員の指導力の向上を図った。

週1回の事業所内でのケース会議では、認知症等による支援困難ケースや医療ニーズの高いケース等に対し、主任介護支援専門員が中心となってそれぞれの資格や経験から助言を行い、ケアマネジメントの標準化や質の向上を図った。

職員の育児休業等で常勤換算人数が減った影響もあり、当初目標としていた実績件数には至らなかったが、新規相談に関してはコロナ禍においても地域包括支援センターや大田市立病院、家族等からの直接依頼も多く、終末期や医療依存度の高いケースの問い合わせも増え、事業所の特色の周知や顔の見える関係づくりができた。